

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひかりの芽		
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	就学前の様子を把握しており、継続した支援を行っている。	児童発達支援施設を利用している頃からの職員が多数携わることで、児童の理解、共有が密に行われるようにしている。	年度替わり等ストレスフルな期間に安心して通所できるよう共有をより丁寧に行っていく。
2	複数の部屋の使い方を工夫することで、落ち着いた環境で学習に取り組む事が出来る。	遊びの部屋、宿題や課題を行う部屋と扉を隔てて分けることで集中できる環境を整えている。	学年や個々の学習進度によっても空間を分ける等配慮し、安心して取り組めるよう工夫していく。
3	こどもえんに併設しているため低年齢児と関わる機会が多く、思いやりの心をはぐむ事ができる。	こどもえんの園庭に遊びに行くなどして、戸外遊びを楽しむ中で低年齢児と関わる事が出来るよう工夫している。	活動や行事等を提案し、様々な場面で関わる事が出来るよう探っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域と関わりを持つ機会がない。	地域でのイベント参加や開催を行っていない事。	日常の中で近所の公園や消防署等を訪れる際に挨拶から始め、関りが持てるようにしていく。
2	中学年向けの支援プログラムが不十分であること。	開所して年数が浅く、今までが低学年の利用者ばかりだったため。	年齢が上がるにつれて、また個々の能力に合わせたプログラムが受けられるよう見直し、改善は常に行っていく。
3			